



手術・検査をされる 患者さんへ

Hospitalization guidance

入院案内 II

入院前から退院まで使用しますので、
次の来院までにパンフレットの
内容をご一読ください。
受診・入院の際には忘れずに
ご持参ください。

CONTENTS

手術入院決定から退院までの流れ	1
検査入院決定から退院までの流れ	2
HCUへ入室される患者さん・そのご家族へ	3
安全に手術を受けるために	4
肺血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)とは	7
その他の注意事項	8
手術室に入ってから病室に戻るまでの流れ	9
その他	10
手術終了から退院に向けて	11

手術入院決定から退院までの流れ

Flow from hospitalization to discharge

このパンフレットは、手術される患者さんの疑問を減らし、患者さんが安心して、安全に入院生活を送ることができるようにサポートするものです。入院中は快い療養生活を送り、一日も早く軽快して退院できますように援助させていただきます。すべての面談・検査等で時間を要する場合があります。

入院決定

入院前検査

医師により手術についての説明

入院書類の配布と説明

薬剤師による服薬確認

管理栄養士による面談

●入院前までに発熱、嘔吐、下痢等の体調不良の場合は、必ずご連絡ください。



入院前 外来

循環器内科・口腔外科等の他科受診

薬剤師による薬剤指導

管理栄養士による栄養面談や栄養指導

手術室看護師による面談

麻酔科外来（必要時）

●事前に必ず「麻酔のしおり」をご一読ください。

入院説明・入院前支援看護師による面談

入院

麻酔科受診（入院前に麻酔科外来受診がなかった場合）

●事前に必ず「麻酔のしおり」をご一読ください。

手術室看護師による術前訪問



必要に応じ、診察、検査案内

手術

手術後説明

『退院許可』については主治医より説明します。

『退院日』については病棟師長とご相談ください。

『退院支援チーム』が相談・お手伝いしますので、

病棟看護師にお申し出ください。

退院

退院時間は、原則**午前10時**となります。



検査入院決定から退院までの流れ

Flow from hospitalization to discharge

すべての面談・検査等で時間を要する場合があります。

入院決定

入院前検査
医師により検査についての説明
入院書類の配布と説明
薬剤師による服薬確認
管理栄養士による面談



●入院前までに発熱、嘔吐、下痢等の体調不良の場合は、必ずご連絡ください。

入院前
外来

循環器内科・口腔外科等の他科受診（必要時）
薬剤師による薬剤指導（必要時）
管理栄養士による栄養指導（必要時）
入院説明・入院前支援看護師による面談

入院

必要に応じ、診察、検査案内



検査

検査後の説明

『退院許可』については主治医より説明します。
『退院日』については病棟師長とご相談ください。
『退院支援チーム』が相談・お手伝いしますので、
病棟看護師にお申し出ください。

退院

退院時間は、原則午前10時となります。



HCUへ入室される患者さん・そのご家族へ

必要物品

1. バスタオル 3~4枚
2. タオル 5~6枚
3. 病衣
(HCUに在室の間は、HCU専用の病衣を使用しますが、HCUを退室時に必要となりますので『病衣・タオルプラン』の手続きをしていただくか、ご自分の寝衣をご準備ください)
4. 箱ティッシュペーパー
5. 歯磨きセット
6. 義歯の方→義歯収納容器(蓋つき)、義歯洗浄剤
7. コップ(プラスチック製)または吸い飲み
8. ストロー(コップを使用する場合に使用します)3本程度
9. イヤホン(テレビを視聴時に必要です)や耳栓(オープンフロアのため雑音がきこえやすいです)
10. オムツ(テープ止め)2~3枚、おしりふき(2個)
→『紙オムツセット』を利用される方は、オムツの準備はいりませんがおしりふきが1個しかついてきませんので、追加で1個をご用意ください。『紙オムツセット』を利用されない方は、提示してある個数をご用意ください。
11. 履きもの(入院案内で提示してあるものをご用意ください)
12. その他
 - ・眼鏡、眼鏡ケース
 - ・電気ひげ剃り(普段使用されている方)
 - ・HCUへ入室する際に、上記の必要物品が入る大きさの袋をご準備ください。

タオル、バスタオルは、入室期間や状況に応じて使用する枚数が異なります。多めに準備されても問題はありません。入院セットで『病衣・タオルプラン』を利用される方は準備する必要はありません。

※紛失防止のため、準備された全ての物品には、事前に名前をご記入ください。

★貴重品（指輪・現金・携帯電話など）は持ち込めません。

お伝えしたいこと

- 手術後は、状況に応じて飲水が許可されます。
HCU入室の際に、500mlペットボトル(ただし、水に限ります)1~2本(未開封)を持参していただいてもかまいません。
- HCUより別の病棟へ移動の際は、HCUの看護師よりご家族へご連絡します。
どなたに連絡をすればよいか を手術の朝までに病棟看護師へお知らせください。



ご不明な点は看護師へおたずねください。

安全に手術を受けるために



下記の場合は、
手術を担当する**診療科の外来**に
ご連絡ください。

- 感染症にかかったとき(手術前1週間以内に風邪をひいた時など)
- 発熱があるとき
- 新たな病気が見つかったとき
- 大きなけがをしたとき
- かかりつけ医から処方されている薬の内容が変わったとき
※手術前に中止しなくてはならない薬もありますので、内服前にご連絡ください。
- 急用などで、予定通りに受診・入院することが難しいとき

Q. 風邪をひくと手術は受けられないの？

A. 全身麻酔では人工呼吸を行います。風邪の症状がある時に人工呼吸を行うと、全身状態の回復が遅くなったり、肺炎を起こしたりする可能性が高くなります。症状によっては手術を延期する場合があります。

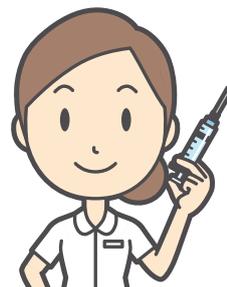
〈手術前の予防接種について〉

- 当院では予防接種から手術までは、不活化ワクチン(インフルエンザ、肺炎球菌など)の場合は1週間以上、生ワクチンでは3週間以上あけていただくことになっています。
- 期間が守られていない場合、手術が延期となる場合があります。
- 手術後の予防接種は、主治医の許可が出てから受けてください。
- 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種については、少なくとも手術の前後1週間は避けてください。

※診療科により期間が異なる場合があります。主治医の指示に従ってください。

※接種した日を0日とします。

※原則、手術後1週間後から予防接種は受けられます。



安全に手術を受けるために

入院までの注意事項

〈禁煙について〉

- 現在喫煙している方は、**すぐに禁煙してください。**(電子タバコも含む)
- **手術前2週間以上の禁煙を原則とします。**

Q. タバコを吸っているとどんなデメリットがあるの？

A. 喫煙していると、酸素の取り込みが少なくなり、傷の治りが悪くなります。手術後に痰が増え、肺炎や無気肺といった肺合併症を起こしやすくなります。

- 喫煙している場合は、全身麻酔の手術はできない場合もございます。
- 副流煙も悪影響を及ぼしますので、ご家族の方も禁煙にご協力ください。

〈口腔ケアについて〉

- 当院では手術前に歯科を受診していただき、口の中の状態をチェックします。口腔内の清掃と、ぐらついている歯がある場合はその治療をします。
※歯科受診がなかった場合は入院面談時に、看護師が口腔内の観察をする場合がございます。



Q. お腹の手術なのに、どうして歯の治療が必要なの？

A. 全身麻酔では、口から人工呼吸のチューブを入れるため、歯垢や歯石などの汚れがあると、肺炎などの合併症を起こすことがあります。また、ぐらついた歯や弱くなった歯は、人工呼吸の際に抜けてしまう恐れがあります。これらの予防のために口腔ケアが必要です。

〈飲酒について〉

- 入院中の飲酒はお止めください。また、入院前と退院後の飲酒については、主治医へご相談ください。
ノンアルコール飲料と表記されている飲料についても禁止とさせていただきます。

〈食事と栄養指導について〉

- バランスの良い食事を心がけてください。
- 栄養状態の改善が必要な方や食事のとり方に注意が必要な方、また医師から指示のあった方は、手術前に栄養指導を受けていただきます。



〈呼吸訓練、運動、体力づくり（早期回復に向けての準備）〉

- 手術後は痛みなどにより呼吸が浅くなり、痰を出しにくくなります。手術前に運動をして呼吸機能を高めておくことで、肺炎や無気肺になるリスクを減らすことができます。



Q. 具体的にどんなことをしておけば良いの？

A. 呼吸訓練としては、腹式呼吸の練習や、大きく息を吸ってできるだけ早く吐くという動作を繰り返し行うと良いです。術前の運動としては有酸素運動が効果的です。

手術後の深呼吸は痰の排出を促し肺合併症予防につながります。
口すぼめ呼吸法を使って腹式呼吸を練習しましょう。

口すぼめ呼吸



腹式呼吸



病歴の確認について

- これまでにかかった病気や現在治療中の病気、アレルギー、生活習慣について伺います。安全に手術・麻酔を行うために必要ですので、すべてお話しください。
- アレルギーは命にかかわる場合があります。特に薬、食べ物、金属、アルコール、ゴム製品のアレルギーについては、必ずお申し出ください。

肺血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)とは

肺の血管に血栓(血のかたまり)が詰まって、突然、呼吸困難や胸痛、動悸(ドキドキする)などを起こす病気です。

※この病気は、長時間飛行機に乗った際に足の血流が悪くなり起こったことから「エコノミークラス症候群」とも呼ばれています。

Q. どうして起こるの？

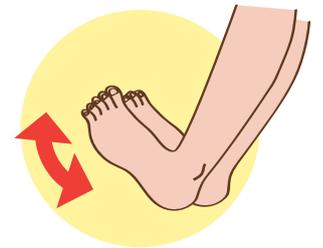
A. 入院中、ベッド上で足を動かさないでいると、足の血の流れが悪くなり、血栓ができやすくなります。その血栓が何らかのきっかけで肺まで流れて起きます。

肺血栓塞栓症を予防するためにできること

POINT!

できる範囲で足先を前後に動かしましょう。
そうすることで足の筋肉が動き、血のめぐりがよくなります。

※足首を動かすことについては、医師の許可を得てから実施しましょう。



足首を前後に動かして
ふくらはぎの血流をよ
くしましょう。

こんなときは？

いつもと違う症状

- 息苦しさ
- 胸痛
- 動悸(ドキドキする)
- 足の痛み など

があったときは、医師・看護師に伝えましょう。

- 手術や病状により、ベッド上で過ごされる時間が長い場合、「弾性ストッキング」をはいていただく場合があります。医師の指示により、入院後、足のサイズを測定し、病院で準備します。ご自身で準備の必要はありません。
- 医師の指示により、手術中に足をマッサージする機械を取付ける場合があります。
- ストッキングや足のマッサージの機械は、外すときも医師への確認後となりますので、きつくてお困りの方は、遠慮なくお申し出ください。

その他の注意事項

手術・検査前に外していただくもの

〈 貴金属類（アクセサリー・ピアス・指輪・時計）・その他（湿布・入れ歯等） 〉

貴金属を身につけていると、電気メス等を使用する際に、火傷をする可能性があります。
アクセサリー類・ヘアピンなども手術・検査前に外していただきます。
特に指輪は、手術・検査直前に外れないため、慌てることがあります。
手術後、検査後に指先が浮腫み、血行障害や神経障害を引き起こす可能性もありますので、入院が決まったら、指輪が外れるかの確認をお願いします。
指輪が外れない場合は、カッターで切断することがあります。



〈 マニキュア（ジェルネイル）・ペディキュア（透明であっても×） 〉

爪は患者さんの呼吸状態や、様々な身体の状態を知る大切な観察部位となります。
マニキュアなどを施されていると、全身状態の評価ができなくなります。
ジェルネイルは、外すために予約が必要な場合がほとんどです。直前に慌てないように早めに確認してください。
また、長すぎる爪も思わぬ怪我の原因になりますので、入院前に短く切ってください。



〈 化粧（ファンデーション・アイシャドウ・口紅・頬紅） 〉

顔色も呼吸状態や循環動態など、患者さんの身体状態を知る大切な観察部位となります。
患者さんの肌や唇の色を観察しますので、入院中は控えていただき、手術前はすべて落としてください。肌色を調整する化粧品（下地クリーム・薄付きファンデーション・パウダー類）もご遠慮ください。



〈 かつら・ウィッグ 〉

金属を使用していないものでも、身体を動かすときなどに頭部や頭皮、頸部を痛める可能性があります。
病室から外にでる際、外すことに抵抗がある場合は看護師にご相談ください。
また、髪の毛の長い方は束ねていただきますので、ヘアゴムをご持参ください。

〈 まつげエクステ・つけまつげ 〉

手術中は目を保護するために、テープで覆う場合があります。
まつげエクステは、入院前に外していただくようお願いします。



〈 眼鏡・コンタクトレンズ・補聴器 〉

眼鏡・コンタクトレンズは外していただきます。
入室時に眼鏡が必要な方は、看護師にご相談ください。



〈 顔のひげそりをお願いします 〉

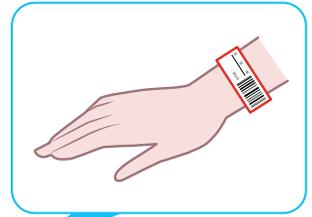
ひげは医療器具、挿入物（挿管チューブや胃管チューブ）の固定の妨げになります。
入院時から入院中は、顔のひげそりをお願いします。



手術室に入ってから病室に戻るまでの流れ

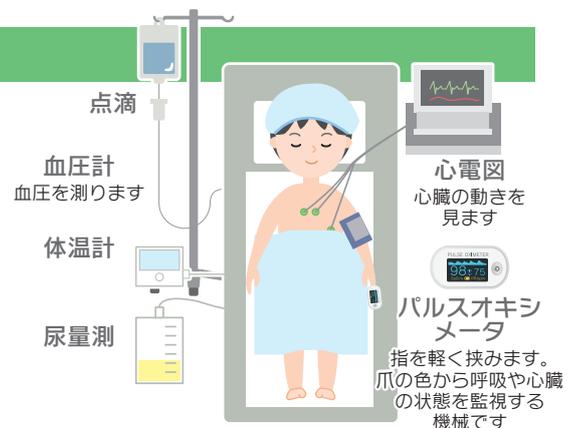
手術室に入ります

- 手術室へは肌着を脱いで手術着に着替えてきていただきます。はだけやすいので下着・ズボンは履いたままで結構です。(金属類の付いていないもの)病衣をレンタルしている場合は、病衣のまま搬入となります。
- 病棟看護師とともに手術室へ入ります。
- 手術室看護師が引き継ぎます。
- 本人確認のため、名前と生年月日を言っていただき、腕のネームバンドで確認をします。手術部位の誤認防止のため「マーキング」を行います。マーキングは、数日残る可能性があります。



手術室に入ってから

- 手術室の入り口にてもう一度ネームバンドで名前の確認をします。
- 手術台が狭いのでご注意ください。
- 手術室は一定温度で管理しています。寒さを感じる場合は、手術室看護師にお声かけください。
- 血圧計、心電図、パルスオキシメータ(身体の酸素をはかる機械)を装着します。



手術室に入ってから

- 手術台が狭いので、危険防止のため手足を固定します。
- 口にマスクを当てます。酸素が流れているので、ゆっくり呼吸してください。
- 麻酔科医師が声を掛けながら少しずつ麻酔をかけていきます。
- 麻酔をかけた後、自然に尿が出るように管を入れる場合があります。
- 床ずれを防止するために、クッションを使っていきます。
- 手術中に、足の血流が滞らないように、足をマッサージする機械を付けて血液の流れを助けます。
- 手術中は、寒くないようにベッドに温かい空気を流して身体を温めます。



手術終了から退室まで

- 麻酔の覚め具合を確認するため、看護師が名前を呼び、手を握りながら声をかけます。
- 麻酔から覚めたら口に呼吸を助けるチューブが入っています。ゆっくり口で呼吸をします。
- 麻酔が覚めたことを確認したら呼吸を助けていたチューブを医師が抜きます。
- 手術台が狭いので動かないようにします。
- 口に酸素マスクを当てます。
- ベッドに移り、病棟へ戻る準備をします。
- ベッドで病室へ戻ります。



輸血について

- 手術時の出血が多い場合や術前に貧血がある場合などは、生命の維持や全身状態の安定のために輸血が必要となることがあります。
- 宗教上の理由等により輸血を拒否される患者さんについては、手術の術式や全身状態によっては、当院での手術自体をお断りする場合があります。また、当院で手術を行う場合でも「免責証明書」を提出していただく必要があります。



家族の同伴入室について

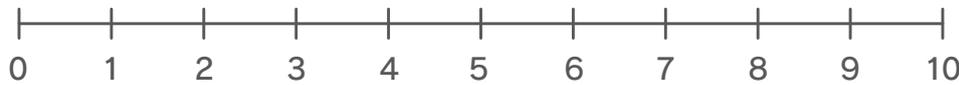
- 小児の手術に際しては、お子さんの不安を軽減するため、麻酔で眠るまでの間、保護者の付き添いが可能です。詳細は、入院後に手術室看護師より説明いたします。
- 同伴入室の対象となるのは、原則として小学生以下のお子さんが対象です。
対象以外の同伴は、手術室看護師へご相談ください。



手術終了から退院に向けて

術後の痛みについて（痛みを我慢しないで！）

- 手術後の痛みが強いと、早期の離床が困難となり、術後の回復が遅くなります。
痛み止めをしっかりと使って積極的に動くことが重要です。
- 痛みの強さを0～10の数字で教えてください。
我慢せず、1～5の中程度より軽い痛みのタイミングで教えてください。
- 手術によって痛み止めの方法も変わります。手術の内容の程度や、患者さんの全身状態に合わせた痛み止めを行います。痛みの感じ方には個人差がありますので、痛み止めが不十分な場合は我慢をせずに申し出てください。



痛みはない 軽い痛み 中程度の痛み 強い痛み 最強の痛み

術後の早期離床とリハビリテーション

- 手術が終わった後は、できるだけ早くリハビリを開始することが重要です。寝たままの期間が長くなると、肺炎や無気肺、腸閉塞、静脈血栓症、褥瘡、せん妄といった合併症が起こりやすくなり、元の生活に戻るために時間がかかってしまいます。
- 手術後の痛みが強いと動くのが辛くなりますので、痛みは我慢せず鎮痛薬をしっかりと使ったうえ、積極的に動くようにしてください。ベッド上でもできるだけ起き上がったり、体を動かしたりしてください。

Q. 手術後はいつから歩けるの？

A. 手術によって異なります。医師の指示にしたがい、看護師から説明があります。全身状態をみながら、できるだけ手術翌日から歩行やリハビリを開始するようにしています。最初の歩行時は看護師が付き添いますので、指示があるまではベッド上でお過ごしください。

〈お願い〉

- 転倒を防ぐため、歩きやすい靴を準備してください。
(スリッパ、クロックスは不可です。)
- 手術中の貴重品の保管、管理につきましては病棟看護師におたずねください。



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

いまきいれ総合病院

URL

<https://imakiire.jp/>



〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号 TEL(代表)(099)252-1090 FAX(代表)(099)203-9119

2024.8.1,000
[1-010]